No.178　粘液癌（胃癌の転移）　荒尾市民病院　山﨑芳満

① 症例

72 歳、女性

② 既往歴

2 年前に胃体部癌にて腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行

③ 臨床経過

右乳房 B 領域尾側に 18mm の腫瘤を指摘、経時的に増大傾向

④ 検体、材料

乳房穿刺吸引材料

⑤ 細胞診所見

粘液を背景に、孤在性～上皮性結合を示す集塊状に単調な細胞の出現を認める。細胞境界は比較的明瞭で、細胞質は泡沫状、核は偏在性で、N/C 比は高くないが、核の大小不同、核形不整、クロマチン増量、核小体の腫大等が認められる。以上の細胞所見より粘液癌を考え、既往歴を考慮すると胃癌の転移が疑われる。

⑥ 組織所見

周囲に種々の厚さの線維性被膜を有する結節性病変が見られ、結節の内部では、辺縁部には染色性が増加した核と泡沫状の豊かな胞体を有する細胞が密に見られる。個細胞で見られる細胞が多いが、数個が上皮様の結合を示す像もある。背景の粘液様物質は、PAS 染色、アルシアン青染色、ムチカルミン染色のいずれでも陽性。結節内に見られる細胞が、粘液産生の腫瘍か、泡沫細胞かの検討では、EMA（＋）AE1/AE3（＋）MIB-1（＋）で、上皮性の悪性腫瘍と考えられる。部位的に浸潤性乳癌（粘液癌）が考えられるが、胃癌（粘液癌）の既往があり、両者の鑑別が必要である。組織像は既往の胃癌（粘液癌）に類似しており、ER（－）PgR（－）HER2（－）GCDFP15（－）で、胃癌（粘液癌）の皮膚転移と判断する。

⑦ 鑑別点

(1) 嚢胞（泡沫細胞の集簇）

細胞結合性なし、細胞境界は比較的明瞭、核は小型類円形で偏在性、細胞質は豊富でしばしばヘモジデリンを貪食

(2) 顆粒細胞腫

緩い結合性を示す合法状小集塊、細胞境界は不明瞭、核は小型類円形で偏在性、細胞質は豊富で好酸性の顆粒

(3) 浸潤性乳管癌（硬性型）

索状～線状の小集塊、N/C 比高く核は楕円形～不整形、核は圧排され木目込み状、ICL がしばしば観察される

(4) 浸潤性小葉癌

孤立散在性～線状配列　Indian file、N/C 比は高く核は円形～楕円形、ICL が高率に観察される

(5)　粘液癌（乳腺原発）

豊富な粘液の中に球状～乳頭状の細胞集団、腫瘍細胞の大きさは比較的揃っている、単個の腫瘍細胞を認めることは少ない（pure type）

(6)　アポクリン癌

核の大小不同が目立ち核間距離の不均等な平面的配列を示す集塊、細胞形態は多彩で豊富な細胞質、細胞質内にアポクリン顆粒、円形～楕円形の大型核小体

文献

乳癌取扱い規約第 18 版　日本乳癌学会
カラーアトラス乳腺細胞診　医療科学社
乳腺細胞診カラーアトラス　医療科学社
スライドカンファレンス方式実践細胞診カラー図鑑　HBJ 出版局